

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (九州)		衣料品専門店（総務担当）	・9月には、消費税引上げ前の駆け込み需要が発生し、結果として現状より良くなる。
		一般レストラン（スタッフ）	・長過ぎたゴールデンウィークの影響で、消費が悪くなっていたが、ようやく落ち着いている。
		観光名所（従業員）	・繁忙期に入るが、ゴールデンウィーク期間中は相当数の客が来場しており、夏季休暇中に避暑地としても、多くの客の来場が予想される。
		商店街（代表者）	・10月より消費税が10%に引き上げられ、その直前の駆け込み需要が見込まれる。この引上げにより消費は落ち込み、政府も対策を打ってはいるものの、長い目でみると景気状況は決して良くならない。
		商店街（代表者）	・10月の消費税引上げにより、購入の前倒しが考えられる。
		百貨店（販売促進担当）	・リニューアルに伴い、新しい客が来店することが予測される。さらに、消費税引上げ前の駆け込み需要が期待される。
		百貨店（売場担当）	・天候や消費税引上げの駆け込み需要が9月にあり、上向きになる。百貨店は物産催事の売上が悪く、複合施設については状況は良い。総合スーパーマーケットについては、客層が似ており、単価的に低く、ファミリーターゲットの動きが鈍いのが現状である。
		百貨店（プロモーション担当）	・消費税引上げ前に秋冬物コート等の稼動が予測されるが、10月以降は揺り戻しも想定される。
		百貨店（経営企画担当）	・セール期に入り客数、客単価共伸長する見込みである。加えて、消費税引上げ前の駆け込み需要も期待され、短期的には良くなる見込みであるが、秋以降の大幅な下振れを懸念している。
		百貨店（売場担当）	・現在、消費税引上げに伴う駆け込み需要は余り見られないが、9月には影響が出始め、売上増加に期待している。
		家電量販店（店長）	・予定どおりであれば、消費税引上げまで3か月前となり、確実に駆け込み需要が見込める。接客中、客の駆け込み需要の会話が多く聞かれるようになっている。
		家電量販店（店員）	・4Kテレビの金額が下がっていることもあり、非常に売れている。消費税引上げ前の駆け込み需要が増加している。
		家電量販店（総務担当）	・冷夏予想の影響は気になるところであるが、消費税引上げ前の特需は、インパクトが大きいと予想している。
		家電量販店（広報・IR担当）	・最後の駆け込み需要が予測される。
		家電量販店（従業員）	・冷房器具の需要が増えるため、若干良くなる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・コーヒー業界は、夏場に掛けてお中元シーズンに入るが、気候も暖かくなることから店頭での豆の販売から液体系の需要が多くなる。お中元用進物の需要が見込まれるため、今後3か月先の売上は伸びていく。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・今月の好調要因になっているシネマとカード販売促進は、年内は効果が継続すると予想しており、身の回りの景気は若干良くなると考えている。一方で、消費税引上げについては、心配な部分もあるが、駆け込み需要があり、また、軽減税率を上手く活用することで商機もあると考え準備を進めている。
		通信会社（企画担当）	・現在受注している案件の継続も含め、新規の見込み案件が増えていく。
		理容室（経営者）	・梅雨から夏に掛けて暑くなることで、来店回数の日にちが短くなるため期待をしている。
		商店街（代表者）	・先行き不透明で、判断が付かない。
	商店街（代表者）	・収入が増加しないことが一番の原因である。介護保険料や医療費が増えており、物販に対する消費が減少している。	
	商店街（代表者）	・高齢者の来街者が圧倒的に多い中心商店街では、景気とは関係なく低迷が継続している。	
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・当地の景気は本当に良くない。市場ができて40年余り経つため、建て替え時期でもある。そこには仲卸業者が多数入っているが、魚業界全体が落ち込んでおり、先の見通せない状況である。	
	一般小売店〔生花〕（経営者）	・6月はそこそこ忙しい状態であるが、2～3か月先のイベントはお盆のお花ぐらいいになり、現状の売上を見込んでいる。	
	百貨店（企画担当）	・起爆剤となり得るような商材、イベントが見当たらない。	

百貨店（営業担当）	・売上伸長率や商品単価は回復傾向にある。紳士・婦人雑貨、リビング用品等の自家需要やし好性の高い舶来ブランドや貴金属、美術工芸は依然好調であるが、化粧品に関しては、慎重な姿勢を継続している。お中元ギフトの早期展開をしているが、店舗外受注の好調に対しギフトセンターでの売上は伸びず、選挙の影響も無視できない。
百貨店（営業担当）	・グローバルということを踏まえ、G20等がどのように影響していくのか、見極めづらい状況である。富裕層に陰りが見えてきたことについても、株価が影響されていると考えられ、今後の経済が不透明で判断しづらい。
百貨店（営業担当）	・例年より梅雨入りが遅れ気温が上がり切らないため、客足は堅調であるが、夏物衣料の稼働はやや鈍い。夏休み時期に天候が安定していれば、今後上向きになる可能性がある。他店開業の影響による、来街者の増加を期待している。
スーパー（店長）	・来店客数は、前年並みであるが、夏のイベント等やギフト、お盆商戦が課題となる。ウナギでは、価格を下げるために中国のウナギを入れ、ギフト等では付加価値を付けたりして、拡張販売で売上を上げるよう対応していく。
スーパー（統括者）	・消費税引上げを受けて、支出金額全体の削減による消費減少に陥ることが予想される。米中貿易摩擦問題もあり、景気減速要因となる可能性が高い。
コンビニ（経営者）	・客が増えず、伸び悩んでいる。
衣料品専門店（店長）	・一昨年の災害の影響で、依然として来街者が少なく、来店客もほとんどない。
家電量販店（店員）	・冬が暖冬だったことで、家電が消費されず、その分がこの夏にかけて需要がある。
乗用車販売店（総務担当）	・今後3か月で販売台数が落ち込む要因は見当たらない。当面は現状レベルの売上が確保でき、好調が維持できる。
乗用車販売店（代表）	・景気は変わらない。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・今後、7～8月の3連休やお盆休みが到来することで、サービスステーションは忙しくなる。また、当地の観光客や自動車等を利用して帰省する客の燃料油やカーケア商品購入に期待したい。
高級レストラン（支配人）	・次月の予約状況に大きな変化はなく、伸び悩んでいる。
一般レストラン（経営者）	・情勢が不安定のため、景気の良い話もない。しばらくは不透明な状態が続く。
スナック（経営者）	・5月の連休の落ち込みを6月で取り戻す気配はあったものの、今月は例年をやや下回る結果になる。ボーナスや好天続きという好材料もありながら振るわず、梅雨が本格化する7月が不安である。
観光型ホテル（総務）	・7～8月は例年、一般客や婚礼宴会のレストラン営業が厳しい月間である。一方で、過去の実績から9月は好転することが多く期待できる。
都市型ホテル（スタッフ）	・消費意欲は変わらないが、同業者間での客の奪い合いが激しくなっている。
都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊施設の予約は単価、販売数共に余り変化がない。
タクシー運転手	・中国からの観光客数は減少しているものの、韓国、台湾、香港等の東南アジア諸国からの観光客は増加しており、また、国内からの観光客数も増加している。今後のイベントもめじろ押しで、現状は保たれる。
通信会社（営業担当）	・業界的に、夏場は動きが減る状況である。
通信会社（企画担当）	・販売に影響するイベントがなく、景気は変わらない。
ゴルフ場（従業員）	・この時期は、例年どおり県外国外の客の来場は少ないが、地元客の予約が順調に推移している。
美容室（店長）	・暑くなるとカットの客が増加するが、日中猛暑になると客数が減少し、景気に変化はない。
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・季節要因による客の増加や消費税引上げ前の駆け込み需要が継続することが想定されるが、一方で人材確保が難しく、今後の懸念が残る。
設計事務所（所長）	・結果は2～3か月先に出るため、今月と変わらないと判断している。
住宅販売会社（従業員）	・消費税引上げ後も軽減税率措置で、現在の状況はしばらく続く。

	住宅販売会社（従業員）	・当市内マンションの高額物件や安価な物件もあり、供給過剰の状況になっている。しかし、その割には順調に需要があり、景気はさほど悪くない。景気が悪い企業と良い企業の差が激しい。
	商店街（代表者）	・夏場になると食欲が減少し、10月には消費税引上げ等問題が山積している。一般消費者は、節約しながら生活することになり、景気は若干悪くなる。
	商店街（代表者）	・商店街内で、再開発事業に伴う大規模な解体工事が始まるため、来街者の減少が心配である。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・消費税引上げがあり、小売店での好材料はなく、見通しは悪い傾向にある。今年も猛暑という予報があり、売上は期待できない。
	百貨店（業務担当）	・消費税引上げが近づいており、客の買物に対する慎重さは大きくなっている。勤めても購入に至らず、今後この動きは加速しそうである。
	コンビニ（経営者）	・年金2000万円問題が購買意欲に微妙に影を落としている。
	コンビニ（経営者）	・10月からの消費税引上げにより、客足が鈍くなるのは避けられず、厳しい状況が続くのではないかと懸念している。
	コンビニ（店長）	・年金、消費税引上げ等政治的な問題があり、景気が下降するのではないかと危惧している。
	衣料品専門店（店長）	・夏物商材の売上が伸び悩むと予想している。
	乗用車販売店（従業員）	・この時期は、新商品が出ないため、売上が伸びない。また、消費税引上げが決定すれば駆け込みで商品購入が進む可能性もあるが、今のところは期待できない。
	その他専門店〔ドラッグストア〕（企画担当）	・訪日外国人の需要低下に加え、競合店との競争激化による単価低下や客数の奪い合いが発生し、下降傾向になる。
	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・為替レートは韓国ウォン安になっており、国内では10月の消費税引上げが待っている。また天候も、水不足等が営業に支障を来す可能性があり、プラス要因がない。
	観光型ホテル（専務）	・働き方改革により、勤務時間等を見直しているが、社員の増員を考えると、人件費が利益を圧迫するのではないかと心配している。
	都市型ホテル（販売担当）	・訪日外国人の中でもアジア系は、特に暑い日本を嫌っており集客が望めない。自然災害が多く、九州内で発生すると一気に来訪しない状況になるため、見通しが悪い状態である。
	旅行代理店（従業員）	・5～6月でも夏の予約が伸び悩んでおり、夏の旅行を控えている人が多い。ハワイへの直行便撤退もかなり響いている。
	タクシー運転手	・客に消費税引上げに対しての気持ちの変化があり、秋に掛けて景気は下降していく。
	タクシー運転手	・参議院選挙があるため、厳しい。
	競艇場（職員）	・例年の傾向から、今後悪くなると予想される。
	美容室（経営者）	・10月から消費税引上げや年金問題もあり、不安な状況である。
	美容室（経営者）	・真夏は、業界として売上が低迷する時期である。6月は低迷していることが多く、以前のように季節の数字がつかめない。イベントがない限り景気回復が望めなくなっている。
	設計事務所（所長）	・世界政治・経済の先行きの不透明さが続く限り、良くなる方向には行きそうにない。また消費税の引上げや年金不足問題等、自己保全の動きが、金を使わない状況に動くのではないかと懸念される。
	設計事務所（代表）	・今後、消費税引上げの影響が懸念される。
×	一般小売店〔青果〕（店長）	・7～9月は、前年のように猛暑が続き、今月雨が降らなかった分、雨が多くなると予想している。野菜の相場も高騰し、客の需要も下がり、かなり厳しい3か月になると懸念している。
×	スーパー（店長）	・米国によるイラン経済制裁や消費税引上げで、景気が良くなるような明るい材料が乏しい。
×	スーパー（店長）	・老後の年金問題や10月の消費税引上げ等により、消費を上向きにするような要素が何も見当たらないなかで、競合店との価格を含めた競争により、今以上に厳しい営業数値が続くことが予想される。
×	スーパー（総務担当）	・10月からの消費税引上げの駆け込み需要は、一時的なものと思われ、老後の年金問題等もあり、その後の買い控えが強くなると懸念している。また、最近の流れとして30～40歳代の客層がディスカウント店に流れている傾向がある。

	x	高級レストラン（経営者）	・7～8月の予約状況は、かなり空きが多く困っている。7月には参議院選挙もあり、当店に関しては、企業の動きが鈍くなると厳しい。
企業 動向 関連  (九州)		-	-
		農林水産業（経営者）	・今年は、梅雨明けが伸び、消費にも影響が出そうである。夏は外食やイベントが多いことで、消費に期待ができるが、落ち込んでいるスーパーマーケット等の個人消費が心配である。この上に、10月の消費税引上げがあれば、消費が大きく落ち込むことが懸念される。しかし、加工メーカーは、少しずつ戻ってくるため、良質な商品を安定的に供給すれば、売上は維持できる。価格は、生産合理化や原料の値下げで対応していく。
		農林水産業（従業者）	・台風の季節になったこともあり、今後、市況が荒れる可能性がある。北海道の出荷時期に依存する可能性がある。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・現時点の受注量から判断して、売上見込みが期待できる。
		鉄鋼業（役員）	・現在が底値状態で、これ以上の悪化はない。
		電気機械器具製造業（取締役）	・中国の景気が世界に与える影響は無視できないが、それを乗り越える工夫が出てくることも考えられる。
		建設業（社員）	・現在は、手持ち工事が詰まっており、作業員は不足状態である。来年の国体開催に向け、第2四半期、第3四半期と続くよう、受注に向けて努力で対応していく。
		家具製造業（従業者）	・米中貿易摩擦の影響は、家具業界にも広がっており、中国から周辺国への工場移転が急速に進んでいる。その他中東情勢等不安要素が多く、景気回復の要因は見当たらない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・店頭等の売行き状況がつかめず、ネット商品が増えており、先行き不透明である。
		金属製品製造業（事業統括）	・仮に米中関係が収束したとしても、即受注拡大にはつながりにくい。
		一般機械器具製造業（経営者）	・輸出の問題とユーザーの内部体制の変更が不安材料である。それにより今までの状況が変わり、落ち着くまでは悪い状態が続くのではないかと懸念している。
		一般機械器具製造業（経営者）	・今後も半導体製造装置関連は、しばらく足踏み状態が続く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・米中貿易摩擦等の不安材料はあるものの、実態として需要は好調である。
		その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・米中貿易摩擦問題が解決しなければ、生産向上は見込めない。逆に米国によるイランへの経済制裁で、貴金属相場が上向きになっている。
		輸送業（従業者）	・健康食品の受注生産は、現在の発注量から変化がない。
		輸送業（総務担当）	・在庫量は多いものの、出荷量は平均並みである。10連休の反動も重なり例年と違う動きを見せているため、測りかねるところがあるが、総じて景気に大きな影響はない。
		通信業（職員）	・官庁系の業務が受注できない状態が続いており、受注量が伸び悩んでいる。
		通信業（経理担当）	・消費税引上げの動きをにらんだ状態が継続する。
		金融業（従業者）	・公共工事が高水準で推移しており、旅行取扱業務では国内外の客共に増加している。海外需要の減少により、輸出は弱含み傾向にある。また、人手不足から経営面での問題が生じている企業も少なくない。
		金融業（調査担当）	・取引先の資金需要や取り巻く環境は、ここ1年で大きな変化はない。今後、参議院選挙、消費税引上げとトピックが続く。海外では、中国経済の減退、米国長短金利逆転からくる米国景気の減速、欧州首長の就任動向、円高進行等懸念材料が顕在化しつつあり、景気変動局面は近づいている。
	金融業（調査担当）	・消費税引上げを過度に意識した動きは今のところ見られないものの、世界経済の減速懸念が強まるなか、今年後半からは、景気下押し圧力が徐々に強まってくる。	
	金融業（営業担当）	・梅雨から夏に掛けて、天候の変動が予想されるため、小売業を始めとした消費者に直接関わる物販に関しては、先々大きな売上は見込めない。また、大きな受注等が発生しても、どの業種もそれを賄う人員が不足している状態が続く。	
	金融業（得意先担当）	・個人客の資金需要が活発化している状況であるが、法人については、慎重な姿勢を見せているところが多く、現状維持である。	
	不動産業（従業者）	・保有宿泊施設の稼働状況は、横ばいに推移しており、今後もこの傾向が続くと予想される。	

	新聞社 [ 広告 ] ( 担当者 )	・参議院選挙関連の出稿は期待できるが、その他の申込件数が減少している。	
	広告代理店 ( 従業員 )	・今月の新聞折込受注金額は、前年比96%と半年間前年を下回る結果になっている。消費税引上げを前にした駆け込み需要もみられず、業種別では、百貨店、スーパーマーケット、娯楽等の不調が続いている。一方、自動車販売、求人関係、通信販売等は好調である。	
	経営コンサルタント ( 社員 )	・株主総会は一段落しそうであるが、新しい取組の予定もなく、余り期待は持てない。	
	経営コンサルタント ( 代表取締役 )	・自社ホームページのアクセス数や問合せ件数に変化がない。	
	経営コンサルタント ( 代表取締役 )	・6月に降水量が少なかった影響で、7月には多くなると予想され、例年より短期的に厳しい状況になる。当地ではラグビーのワールドカップが控えており、秋口に掛けて若干持ち直すのではないかと期待している。	
	その他サービス業 [ 物産リース ] ( 支社長 )	・取引先の設備投資が少ない。多少の不服感があるのではないかと考えている。	
	食料品製造業 ( 経営者 )	・7月以降は季節性の商材の端境期になるため、製造や販売共に厳しい状況が予想される。	
	精密機械器具製造業 ( 従業員 )	・取引先からの受注量がかなり激減しており、まだ、この先の見通しがつかない状況である。	
	輸送用機械器具製造業 ( 営業担当 )	・国内向け車両生産台数の減産と海外向け車両へのオプション装着部品の急激な減産が影響している。	
	建設業 ( 従業員 )	・最近では順調に受注できているが、配置人員の不足で受注が困難になると予想され、景気はやや悪くなる。	
	経営コンサルタント ( 社員 )	・業態変更あるいは、倒産傾向が起きる可能性がある。	
	その他サービス業 [ コンサルタント ] ( 代表取締役 )	・6月議会で、新たな調査や計画策定の業務が予算化されているが、予算化された件数が少なく、指名競争入札になった場合は、ダンピングでの入札が繰り返されるため、受注できる機会が少ない。この状態が継続すると景気が悪くなると予想される。	
	x	繊維工業 ( 営業担当 )	・どこの工場も、最低賃金の上昇によりとても苦しんでいる。全体的な値上げに工賃が追いつかず危惧している。
雇用 関連 (九州)	-	-	
	人材派遣会社 ( 社員 )	・選挙に伴う仕事が発生し、特需が見込める予定である。	
	人材派遣会社 ( 社員 )	・消費税引上げ前の特需感がない。	
	人材派遣会社 ( 社員 )	・増員で人手が欲しいという注文ではなく、自社で採用につながらないために派遣会社へ依頼する流れは変わらない。新規注文は、ほとんどがそのような理由から依頼されている。	
	人材派遣会社 ( 社員 )	・例年どおり、秋口にかけて退職者や直接雇用不補充枠による動きは予想されるが、上向きになる材料がない。働き方改革で、同一労働同一賃金の流れが出るのであれば、派遣としての働き方で、もう少し動きが出てくることに期待したい。	
	求人情報誌製作会社 ( 編集者 )	・主に中国や韓国からの訪日外国人の客が多い。この傾向はしばらく続く予想される。また、9月からラグビーの試合が始まるため、世界各国から来訪者が増加し、当地を拠点に移動する影響により、サービス業は活況を帯びてくる。こうしたなかでの採用問題は、一段と厳しくなると懸念している。	
	職業安定所 ( 職員 )	・求人数が減少傾向とはいえ、まだ高止まりで推移している。6月は、G20等国際間の動きがあり、成果に期待したい。	
	職業安定所 ( 職員 )	・電子部品製造業では、工場閉鎖の噂や希望退職者の募集もあるが、一時帰休を取りやめたケースもあり、取扱製品によって大きく異なる状況である。近隣地区では、今後数年間に大型商業施設が連続して開業するが、限られた労働力で流動性は高まる可能性がある。	
	学校 [ 大学 ] ( 就職支援業務 )	・前年度の採用者数未充分に加え、労働人口の減少により求人活動は継続されている。	
	人材派遣会社 ( 社員 )	・9月までは、長期の新規求人事務案件の減少が続くと予想される。ひっ迫して事務人材を必要とする業種もなく、退職人員の補充の求人が主になる。	
	職業安定所 ( 職員 )	・新規求人の減少と新規求職の増加という現象があり、新規求人下がったことで、新規求人倍率が低下をしている。例年と異なった動きが出ており、若干景気が悪くなる。	
	x	-	-